

審議中

こんな質疑がありました

問 ふるさとふれあい事業費枠の堅持を

Q 各旧町村各年度二千五百万円枠うち、十六年度は二百万円を配分した。
未配分二千三百万円の配分と将来は。

A 町長
各年度二千五百万円に加えて、十八年度二百万円、十九年度から二十五年まで各二百万円を配分する。

将来的には、合併協約であること・高原町オンリーの特色ある事業であることの両面を尊重しながらやっていくが、財政的に二十五年まですべて可能かどうかは現段階では言えない。

Q ふれあい事業基金を財源として、十七年度各地区で計画された一千七百四十四万七千円を一般事業に振り替えていく。

もともと、これらの事業は一般事業財源で対応すべき性質のものである。ふれあい事業基金十億円は本来の特色ある地域づくりの推進経費として堅持すべきである。

A 助役
旧町村の特徴的の事業としてこの枠に計上されたものであるが、各地域での協議を経て、一般財源に振り替えたものである。

将来については、各地域の共通的事业の一体化も含めて事業の見直しと、この事業の整合性等各地域と協議しながらあり方を今年度整理していく。

Q 十六年度未執行分四十六万五千円を基金造成積立金としている。今後同様処理するのか。

A 企画課長
基本的にその様と考えている。



神石踊り娘隊きらきら屋（仙養つつじ祭）

問 水道工事に町内業者を

Q この水道工事は、大手業者との共同企業体で入札が行われている。町内の業者では管理能力が無いと言われたが、本当に出来ないのか。旧油木町時代に、同じような入札が行われた。

その時も質問したが、大手業者との共同企業体を組み、町内業者の実績を作ろうと答弁されていた。管理工事は五千万以上が大手業者となっている。今回も一件はわずかに

A オーバーしたのみである。今後同じ方式か。
環境衛生課長
水利計算、電気工事などの実績や施行管理人などを考慮して、今回は大手業者との共同企業体で行った。

今後は地元業者を指名するようにしたい。
町内業者の方も努力して頂きたい。

問 公社・産品市場は再編統合を

Q 今、本町が大株主の会社は「油木特産販売」「さんわ182ステーション」「神石高原直売公社」「豊松陽光の里公社」「三和農業公社」「帝釈峡スコラ」の六社があるが、すべてに公的資金

を投入し、結果的に利益がでて国県税を払っている。

運営内容はそれぞれ「旧町村スタイル」で新町に引き継いでいるが、民営化を追求する中で当面再編・統合に踏み切り

体力を強化してより効果的な公的資金を投入すべきである。

特に三和・豊松の農業公社は旧町村範囲内の営業感覚が内外にあり、町の一体化を阻害している。行革の最たるものであるがどのように考えているのか。

A 町長

経理上はスコラを除いて黒字であるが、いずれも内容的には多くの問題を抱えている。新年度から一本化する準備をしていきたい。

Q 産業課関係の補助制度について、事業ごとに申請期限が三区分されている。

最終精算補正予算に間にあう期限設定に統一しないと受益者が混乱するが見直さないのか。

A 産業課長

検討の結果設定したものであるが、新年度から見直す必要がある。

採択された意見書

議員の発議により、四案件の意見書が提出され、すべて原案どおり採択されました。

県立神石三和病院の存続に向けた意見書

提案者 赤木 健二
賛成者 久保田 龍 泉

地方の道路整備の促進に関する意見書

提案者 渡邊 俊 徳
賛成者 小坂 大 輔

教育予算の充実と義務教育費

国庫負担制度の堅持を求める意見書

提案者 松本 彰 夫
賛成者 赤木 健 二

分権時代の新しい地方議会制度の

構築を求める意見書

提案者 村上 克 朗
賛成者 佐伯 卓 師



高自治振興会の研修